

令和7年度 第1回生活支援・介護予防体制整備推進協議会 議事録

日 時 令和7年7月11日（金）10:00～11:40

場 所 刈谷市役所 3階 防災会議室

出席者：

区 分	所 属	名 前
生活支援コーディネーター (SC)	刈谷富士松地域包括支援センター	座馬由華
	刈谷雁が音地域包括支援センター	宇佐美めぐみ
	刈谷中部地域包括支援センター	倉川叔子
	刈谷中央地域包括支援センター	神谷友貴
	刈谷依佐美地域包括支援センター	後藤雅浩
	刈谷朝日地域包括支援センター	清水玲
	ちょこっとささえあいセンター	加藤康子
各種団体を代表する者（民間企業・ NPO法人・協同組合・ボランティア）	刈谷商工会議所	岡田行永
	株式会社ジェイテクト	杉山倫行
	刈谷市療法士連絡会	岩丸陽彦
	かりや愛知中央生活協同組合	林孝志
	刈谷市民ボランティア活動センター	米田正寛
民生委員	刈谷市民生委員	深谷由美子
社会福祉協議会の職員（社会福祉法人）	刈谷市社会福祉協議会	梅本秀之
その他市長が認める者	愛知教育大学	村山心春
アドバイザー	障害者福祉施設サンサン大府	塚本鋭裕

1 議 題

（1）推進協議会長の互選

（2）ちょこっとささえあい事業の進捗について （資料1の議題2を説明）

発言委員等	意見
委員	・ サポーターの人が300円もらうのに抵抗があるという意見がある。チケット制にするとか、どこかに寄付できるようにするとか対策がとれないか。
事務局	・ チケット制は豊明市で導入されておりお金のやりとりが直接されないことや世代交流間の受け渡しが可能というメリットがある。ただ、デメリットとしてセンターが利用者の所まで売りに行く手間があったり、利用者が亡くなった時にチケットがプール金になってしまったりする等の課題がある。現金の受け渡しに関しては、ポチ袋を使って受け渡しをやすくし、現金だから換金などの手間がないという意見もある。チケット制と現金のそれぞれ良いところを利用者やサポーターの意見を聞きながら今後も検討をしていく。寄付については受け取ったサポーターの方が自分で判断してそれぞれの団体等に寄付してもらえれば良いものと考えている。
会長	・ お金を受け取らなくても良いという方には、寄付先を紹介してあげられると、より支え合いとして良い形になると思う。 ・ 今後、サポーターを増やしていくことが重要だと思うが、現状はどのような状況か。
委員	・ 18歳から86歳まで、現在サポーターが232名いる。年代は40代、50代、60代と徐々に増えていき、70代のサポーターが一番多い。男女比は

発言委員等	意見
	女性の方が多い。30 代、40 代の男性は土日しか動けないので、なかなかマッチングすることは難しく、やはり 60 代、70 代の方とマッチングすることが多い。なるべく色々な人とマッチングできるように土曜日に草取りをしてもらうなど調整をしている。
会長	・ 一ツ木町の方の登録が多いが、何か理由があるか。
委員	・ 包括支援センターでもちょっとした困りごとならば、ちょこっとささえあいを使うようにしている。ヘルパーの方は全部、お手伝いをしてしまうが、ちょこっとでは本人のやれることを促すところがあり、利用者の自立という意味でもありがたいと思っている。
会長	・ 本人にもできることをしてもらうというところが良い。
委員	・ 難しいところもあるが、最初が肝心なので利用者にはできることは自分でしてもらうように伝えるようにしている。
事務局	・ 豊明市はマッチングを電話でしているが、刈谷市ではマッチングを LINE でやることにして時間を削減し、センターがサポーター安心してサポートできるように初めましてのご関係であれば、同行している。両者の安心つながる面に時間をかけている。
アドバイザー	・ チケット制以外にも、ポイント制という方法もあり、小牧市ではポイントが溜まったら市の商品券に変えることができるという方法をとっている。これからは色々な方法についてメリット、デメリットを考え検討して欲しい。 ・ この一年間はコンスタントに人数が増えているが、これから周知をどうするかが課題である。市民の方にメリットを広報していく必要があるので地域の回覧板等を活用して事業を周知していくて欲しい。 ・ 一人暮らしの方の孤立死を防ぐうえでも、この事業は地域のつながりを作る入り口になっている。利用者が支えを受け入れていくことに結び付けやすい支援である。この事業を通して、地域とつながっておくことが孤立死を防ぐ。ただし、利用者がサービスに依存的になってはいけなくて、やれることは本人にやってもらう。その調整がセンターとして重要である。

(3) 短期集中予防サービス（モデル実施）について（資料 1 の議題 3 を説明）

発言委員等	意見
会長	・ 今までの予防事業では施設で運動をたくさんやって健康な状態に戻そうとしたが、普段の生活が不活発だとまた体力が落ちてしまう。生活自体をどのように活発にしていくか大事であり、そのための事業である。
委員	・ サービスを受ける側としては、なんでもやってもらえるとと思っているので意識の変化が必要である。サービス提供事業所はモデル事業で壮大なことをやらなくてはならないとためらっているところがある。 ・ 新たに今まで考えてもみなかったやりたいことを見つけなくてはいけないという印象を受けているが、もうちょっと双方が 2 年前に自分がやっていた生活をそのままできるようにするにはどうしたら良いかなど、日常に引き寄せた発想のもと取り組めるとより良くなると考えている。
会長	・ 基本チェックリストから外出頻度などをちょっと前の自分と比べると良い。 ・ 包括支援センターは対象者をどうやって選んだか。
委員	・ 選定にあたってセンターで話し合いをして、活動への意欲がある方じゃな

発言委員等	意見
	いと難しいのではという話になった。今回はこの人ならいいだろうという人を選んだが、意識から変えないといけない人もいる。
委員	私の義理の母は 92 歳で介護 2 であり、話をするが前向きになるのは難しい。今までの自分の生活を変えるのは至難の業である。ただし、今まで生活してきたことなら行動範囲を広げるとか、お話会に行くなどのことはできると思う。まったくの新しいことをやるのは体力的にも精神的にも難しい。メニューを提供するときによく話さないといけないし、押しつけになってはいけない。
会長	目標設定は本人や家族の話をしっかりと聞いて定めなくてはならない。ひとりで散歩をしている方は、暑さが続くと散歩をやめてしまうかもしれない。そういう方を子どもの通学の支援など、意味があることにつなげると継続の動機になる。個々の価値観に寄り添って行くためにも、情報をたくさん持つ必要がある。
事務局	高齢者になると元々やっていた生活を取り戻す気持ちすらなかなか起きない。ただし、今回の取組の事例を 1 つあげると、今までしていたことを療法士が利用者からいろいろと聞いて、その方は知立の焼肉屋さんに行くことを目標にした。車が使えないのでバスや電車を使っていくことにし、その中で足りない動きや行き方など自分で考えるように支援していき、目標に向けた手順を踏んで、利用者の自信をつけていく。
委員	実際に利用者の方から話を聞いたが、その方は熱中症になるから外に出てはいけないと言われて、自分でもどうしたらいいか分からなかった。毎週 30 分間、療法士と話して背中を押してもらえたので、前向きになれて外に出る自信がついた。病院にも一人で歩いて行けることに気づいて、自分で行くこととなった。話を聞いて受け入れてもらえるということは大きいことであると事例から感じた。
アドバイザー	- 認知症の新薬であるレカネマブは認知症の初期の人が飲むと認知症の進行速度が遅くなるが、本事業はそれに近いところがある。機能低下や喪失感から閉じこもりがちになり、徐々に介護が必要になってしまう。ある程度、時間が経ってしまった方より、初期の方の自立を後押ししていくのが重要。本人の同意を得ながらきちんと介入していくこと。 - うまくいった事例やいかなかった事例をよく検証すること。また、自立支援型の地域ケア会議とうまく連携していくと良い。 75 歳～80 歳の初期の人を対象に拾い上げていくことで、介護を使わない生活や在宅生活の期間を延ばすことが重要である。一人暮らしや老老世帯など家庭の中で支え切れない高齢者世帯が 8 割を超えていく。早い段階で社会とつながりながら、機能維持をしていく必要がある。

(4) 高齢者の通いの場マップについて（資料 1 の議題 4 を参照）

発言委員等	意見
委員	当社の施設としては体育館が有力だと思うが、どれだけ使えるかまでは分からない。昔は子どもたちが剣道をする場として貸し出したりしていた。会議室の貸し出しは難しい。
委員	事業所の地域コミュニティルームで月一回オンライン体操のサロンをしている。6 月には地域の方が 12 人参加してもらえた。担い手が重要であるが、今回は包括が見つけてきてくれた。デイサービスでも同じようなこと

発言委員等	意見
	ができればと思う。来ていただいた方には管理栄養士などによる相談もしていきたいと考えている。地域コミュニティスペースは特に組合員でなくても使える。
委員	施設として貸し出す条件はあるのか。空調や台所はいるのか。時間帯はいつか、担い手にも条件はあるか。
事務局	担い手には特に条件はなく活動している人たちとなる。時間帯は午前中が多い。活動はまちまち、人数や内容によってスペースが変わる。民間企業にも具体的な主な活動事例を出して相談していく必要がある。
委員	小垣江にも何カ所か通いの場はあるが、困っているところはあるか。
委員	小垣江はいきいきクラブが5カ所あり点在している。ただ、あると言っても何百メートルかはご自宅から離れている場合はある。
委員	具体的なニーズから特定企業に打診する方法と広く民間企業に募集する方法がある。貸し出しの例をいくつか挙げてもらって、当所が会報等を使って企業に調査協力することは可能。その上で、マッチングを検討していただく方法もある。空きスペースについて、会報を使って呼びかけることができる。
事務局	銀行や車のディーラーなどの空きスペースの活用も考えられる。
委員	地域に貢献したい企業は多いので、うまくマッチングできると良い。トヨタ系企業では地域の方に無料でゲートボールなどの会場を貸し出したりしている事例があった。
委員	大学では施設開放を行っており、お金はかかるが体育館やグラウンドが授業に影響のない範囲なら借りられる。申請書がインターネット上にある。
会長	- グーグルマップの地図を活かして、ある時間になるとラジオ体操をするなどの薄い関係性があるところもマッピングできると良い。 - 商工会議所が店舗のレシートラリーをしていた。サロンでもそういった新しい参加を促すイベントができると良い。
委員	神社の社務所とかが借りられるのではないかな。地元のつながりを活かしてスペースを探すと良い。
アドバイザー	- 通いの場として、ハード的なスペースが必要である。新たな場所として、神社やお寺の社務所なら受け入れられやすいと思う。また、福祉施設の持つ交流スペースや会議室を活かすと良い。高齢者だけでなく子どもや障害者の施設も活用できる。 - 担い手が高齢化してきて、運営が難しい団体がある。社会福祉協議会を中心として担い手を養成できると良い。ちょこっとささえあいでサポーター養成をしているので、連携が取れると良い。個々のサポートと団体へのサポートをしたいという人がいるので、そういう人をそれぞれ養成していくと良い。 - サロンのハードルを下げるならば、家の一部屋を使うという考え方もある。身近なところに増やしたいならハードルを低くすることも大事である。 - 石川県金沢市で地震災害があり介護施設にいた人も避難したが、施設の人の死亡割合はとても高かった。人と人のつながりが生きがいや意欲につながっており、慣れ親しんでいた人との交流が無くなることにより生きる意欲が低下する。暮らしの中でささえあう取組みが健康という観点からも重要である。これから閉じこもり防止やちょっとしたささえあいが重要になってくる。まだまだ広がりが必要であるが、入り口部分を担う施策なので

発言委員等	意見
	それぞれ丁寧に進め、ハードルを低くし、多くの方に取り組んでもらえると良い。

(5) その他

発言委員等	意見
事務局	・ 次回の会議は令和8年2月9日月曜日の午前10時から1階、101会議室で開催予定。

【次回予定】

日 時 令和8年2月9日（月） 10：00～

場 所 刈谷市役所 101会議室